

保護ケースから飛び出し、森に戻るヤンバルクイナ
—21日、国頭村楚洲



安全運転お願いね 交通事故のクイナ放鳥



【国頭】環境省やんばる自然保護官事務所は21日、交通事故に遭って保護されたヤンバルクイナ1羽を国頭村楚洲で放鳥した。クイナの事故は今年過去最悪のペースで起きており、同事務所は今後、繁殖期で活動が増えることから注意を呼び掛けている。

保護されたクイナは19日に楚洲の路上で見つかった。雌の成鳥で骨折などはなく、胴体に打撲があった。血液中のカルシウムが多く産卵前後とみられる。

自立して餌を取ることもできたため、早めに自然に返すことになった。

今年21日までに今回を含め、ヤンバルクイナの事故は9件報告があり、8羽が死んだ。例年事故は繁殖期の4～8月に集中し、1～3月は過去10年で12件(発生183件)しかない。

同事務所は、事故が増えた原因は不明としながら「ゆつくり走ればぶつかっても助かる可能性はある。ドライバーは十分気を付けてほしい」と話した。